

生長の家 神の国寮だより

光の泉

the spring of light



第 18 号

30年度 秋号

公益財団法人 生長の家社会事業団
児童養護施設 生長の家神の国寮
〒186-0003
東京都国立市富士見台2-39-1
tel 042-572-8770
fax 042-573-9205
<http://www.kamino92.or.jp/>



はもとより世界各国で講演され「人類救済の導師」として讃仰されました。

生長の家神の国寮の創設

また、昭和二十一年「財団法人 生長の家社会事業団」を設立され、戦災孤児を養育する「神の国寮（東京・赤坂）」を設立運営されるなど、十項目にわたる戦後の日本再建構想に着手されました。こうした谷口雅春先生

生のお姿は、大東亜戦争の敗戦により意気消沈する人々を鼓舞し励まし、愛する祖国の再建を担う多くの国民に勇気と希望を与えたのです。

「真理」の大悟

血のにじむような求道の末に

谷口雅春先生は、明治二十六年十一月二十二日、兵庫県鳥原村（現在の神戸市）にお生まれになりました。若き日は小説家を志し早稲田大学に進学、貧困や病苦や争いに悩み苦しむ人々の人生苦を解決する「人類救済の道」を希求され、血のにじむような求道と思案の日々を送られます。かかる命懸けの求道の末に、全ての人々のうちに「神の子としての本当の姿（実相）」を顕し、病を癒し苦悩を和らげ悲しみを消す人類救済の「真理」を大悟されたのです。

そして昭和五年、「自分は今生長の火をかざして人類の前に起つ・・・自分の身体が燃え尽くすまで蠟燭のようにみづからを焼きつつ人類の行くべき道を照射する」との宣言のもと月刊誌『生長の家』誌を発刊されました。以来、『生命の真相』をはじめ万巻の書を執筆され、国内

困難を歓迎してはならない。困難を歓迎する心は、その潜在意識が困難を呼び寄せることになるからいけない。しかし、既に自分に臨んで来た困難を悲しんではならない。真珠貝はその殻に傷つけられた「傷」を玉成して美しき真珠をつくる。此方の受けようによつて、自分の能力と品性とを高めないう困難はないのである。（『女性の幸福365章』）

また、「善い言葉は人生の宝」と示された次のご文章は、日々の養育・支援に取り組み私たち職員の大切な指針です。

善い言葉は人生の宝であります。人が意気消沈している時にそれを鼓舞して高める言葉・淋しくなつて人生を呪うような心の起こつた時に、本当に適切な表情をして、親切な微笑を投げかける・常に優しい心持ちをもち、愛に満ちた露いのある心を持ち、人に接する時、拝み合い感謝し合い、相手を尊敬して、その自信を失わしめない。（『人生読本』）

子どもたちの心の中に「ありがとう」「大丈夫！大丈夫！」「がんばったね」「きつとよくなる」「大好きだよ」「嬉しい」「等の「善い言葉」の種を蒔き続けたい！そんな言葉を口ぐせのようにシヤワーのようにふりそそぐ時、「善い言葉」の種が咲いて幸せいっぱい、心豊かな子どもが育つにちがいないと信じます。

施設長 國弘昭義

迎えるにあたって

「善い言葉は人生の宝」

「創立者感謝のつどい」

十一月二十二日は「生長の家神の国寮」創立者である谷口雅春先生のお誕生日です。毎年この日に因んで「創立者感謝のつどい」を開催しています。職員・児童がみんなで谷口雅春先生の愛深いお人柄を偲び、多磨霊園にお参りして一人一人が墓前に手を合わせ、「感謝と決意の言葉」を奉呈し、楽しい会食をして終了します。

小学生のAちゃんは「神の国寮をいっしょうけんめい作ってくれて感謝していただきます。ずっと天国で見まもっててください！」と書きました。B職員は「同じ志を持った人と、一緒に仕事ができること。何より、神の国寮の職員、子ども達との出会い、そこを大切にしてくれる家族と出会えたこと。一番は妻！」と綴っています。

旅すれば遇う人海を拜むなり

遍路の心尊くもかな

人生は浄土に向かふ旅なれば

一步一步に愛を重ねん

（昭和六十一年の御歌）

昭和六十一年六月十七日、谷口雅春先生はこの世の使命を果たされご昇天されましたが、そのご生涯はすべての人を「神のいのち」として礼拝され、国家・社会、世界・人類のためにひたすら愛を重ねて歩まれた偉大な御足跡でした。

谷口雅春先生の御言葉は、今も一層の輝きをもつて、私たちの心に響いてまいります。とりわけ様々な事情で入所してきた子どもたちにとって、「イカナル困難があっても人生の荒波を乗り越えていく力」となるに違いありません。